

中央情報通信

発行日 毎月15日

大日本生産党機関紙

第1368号 令和2年4月15日

4 月 号

	コロナパニックが戦争を呼ぶ気配……………本紙編集部……………	1
	EU 共同体理論が破綻する可能性……………	2
	WHO 事務局長テドロスの正体見たり……………	2
読者投稿	コロナ自粛で花の産地は大打撃……………	3
	議員のレベルが著しく低下している……………	3
寄稿	チャップリンは楠木正成を尊敬していた……………「兵庫通信」代表 村上 学……………	4
	皇宮警察から尊皇心と恥が無くなりつつある……………	5
	支那大陸最新情報……………	5

本 社 〒157-0065 東京都世田谷区上祖師谷5丁目8-9 ハイムマツエ 101
電話・FAX (03)5384-5450 (4月12日より移転しました)
賛助購読料 年額 3,000円 (年10回発行)
ホームページ <http://大日本生産党.com/>

発 行 所
中 央 情 報 通 信 社
主幹・編集長/谷田 透

新型コロナウイルスによる感染症が世界的に爆発している。先進国がパンニックになり、それが終息に向かう頃には発展途上国にパンニックの山が移ることになる。

世界の歴史を眺めると、伝染病の蔓延直後と大不況の直後には戦争の足音が聞こえてくるものだ。今回は、それがダブルでやってきた。

中国は発信源としての責任を免れない習近平が、国内敵対勢力の江沢民派、朱鎔基派などを内戦になる前に叩き潰したい。今回の新型サーズを生物兵器として開発していた最高責任者は江綿恒（江沢民の長男）であり、それを利用して習近平の追い落としを計画していたのは王岐山であり韓正である。王岐山は腎臓移植の術後が思わしくなく、もしかすれば本紙が発行される頃には死亡しているかもしれない。習近平とすれば、今が腹の括り時である。

中国では、武漢などでは感染者を自宅に閉じ込めているので、二次感染は防止できています。食料は配給が滞る所が多くなり、自宅ですのまま肺炎で死亡する人だけでなく、餓死する人も増えている。ところが、それら死者はカウントされないのです、中国はコロナが下火になったというトリックになっている。

インフルエンザ薬と喘息吸入薬を併用すれば治療効果が高いことが判明し、中国では日本からインフルエンザ薬のアビガンの権利を買って、二十四時間フル操業で大量生産している。どうやらイタリアなどへ無料配布して、中国の国際地位を高めようと計画しているようだ。一帯一路も早く進めなければ資金ショートする危険性もあり、中共は必死でヨーロッパ各国へ恩着せを実行中だ。

ヨーロッパとアメリカが下火になる頃には、今度はアフリカで大爆発するだろう。するとアフリカの資源国では、権利の取り

合いを巡って内戦が勃発する。資源も無い貧乏国では、先進国や国際社会からの援助の窓口の取り合いで内戦が勃発し、いろんな陣営から友好国にSOSを発信して戦争を大きくする。これがチャンスと見て積極介入するのが、アフリカ支配権を略奪したい中共である。資金援助、武器援助を繰り返して泥沼にしてから人民解放軍が進駐するという段取りにするのだろうが、それを旧宗主国の欧米が見逃がすはずはないだろう。

新型サーズは結局、アフリカの風土病として根付いてしまうことになるだろうが、中国がアフリカに深く介入することは疑いない。

アメリカのトランプ政権は怒り心頭だが、それ以上にアメリカ軍部と軍事企業が爆発寸前まで怒りの度合いを高めている。アメリカ軍は友好国の軍部に働きかけを強めており、我が国を含めた同盟国は「対中戦」の準備をせかされることになるだろう。

アメリカ疾病予防管理センター（写真）が当初から見積もっていたのは、十月頃の先進国での終息なので、並行してアフリカがピークに向かうことになれば、中共の戦術計画の通りにアフリカで内戦が起り始めることになる。

西側国際社会がどんな理由をこじつけるのかは分からないが、中共はロシア、イラン、北朝鮮などに泣きついて「戦争的挑発を受けて立つ」と言い始めるだろう。そうなれば、アフリカの何処か、或いはアジアの何処かで戦端が切られる。

伝染病の蔓延で疲れ切った後、大不況を乗り越えるA級の戦略は「正義の戦争」というキーワードで世論を誘導することである。

そろそろ我々日本人も、心の準備をしなければならぬようだ。



EU共同理論が破綻する可能性

コロナショックでEUが揺れている。元々ヨーロッパという概念は、ジンギスカンに侵略されていた頃、白人キリスト教集団が団結して戦った時に生まれたものである。それを二十世紀に復活させて、世界の新機軸を模索したのがECであり、それが集団国家体制に移行できるとしてEUになった。つまり、本来のヨーロッパ共同体というのは内向きのものであり、敵に対抗して団結する方便なのである。厳密には民族は違っても、白人でキリスト教なら仲間だったのである。だからソ連共産主義の猛威を防ごうというNATO軍事同盟とは別のものであり、この微妙な違いを消化できない所にもEUの内部矛盾があったのである。



EU加盟国なら国境が無くなるのも移民や広域犯罪組織の思うつぼで、労働力の増強でGDPを押し上げようなどとごまかし続けてきた。

今回の新型コロナウイルスによる武漢肺炎の蔓延で、イタリアやスペインがガタガタになっている背景には、EUの中で最貧国であり怠け者国家であるという問題を、富裕国のドイツとフランスが強制指導で財政改革させたことが遠因である。福祉、教育、医療に回す予算は縮小しなければ、EUからの借金返済が出来なかつたのである。ユーロという共通通貨の価値を下げないという勝手な理念で、加盟国は主権放棄させられるのである。

EUには共通の法体系、軍事防衛体系、警察治安体系などがあるが、各国の国内法もまた、EU法に多少の矛盾があっても優先して運用されている。これもまた消化不良の原因であり、共通通貨の価値観が違う問題も共同体内序列を進行させる原因の一つ

今回のコロナショックによって、EU共同理念がごまかしでゴリ押しされていたことが明確になり、理論的に破綻する日が見えてきた。果たしてそれが良いことか悪いことかは、数十年後の歴史が判断してくれるだろう。

WHO事務局長テドロスの正体見たり!

中共の代理人とか、習近平の代弁者という枕詞が付けられているWHO事務局長のテドロスだが、ここにきて新型コロナウイルスによる武漢肺炎をめぐる迷走の背景が見えてきたようだ。

習近平がWHOを手中に入れるために様々な謀略と賄賂を駆使していたことは一般マスコミでも詳細に報道し始めたが、本紙は面白い写真を入手した。これはテドロス事務局長がまさに中共の言いなりになっている背景を如実に物語るものだ。

写真は、昨年のジュネーブにおけるWHO会議の開催前の一場面だ。照れたように笑顔で会場を歩くテドロスの手を、肝っ玉母ちゃんのように



にしっかりと握っているのは、香港代表だった陳馮富珍女史である。中国名で苗字がダブルになっている人は時々見かけるが、これは名門とか良家の娘が同格以上の家に嫁いだ時に使われる。ここでは馮富珍という女が陳家に嫁いたことがわかる。

この陳馮富珍は習近平の密使と呼ばれており、テドロス事務局長の好みのタイプの女性だったことから、中共の間接コントロールになっているのだ。

金と女で対象者をコントロールする中国式のやり方にひっかかる指導者は我が国にも多いが、今までほとんど失敗していないというから驚く。

コロナ自粛で花の産地は大打撃

花卉業界の一読者

コロナ自粛の影響で、卒業式や入学式が無くなっただけでなく、家に花を飾ろうという情緒も無くなってきたようです。

これによって花の産地では破産するぞという声も聞かれ始めました。

町の花屋は、花市場で仕入れるか問屋から仕入れるのが大半なので、影響と言っても売り上げが落ちることしかない。それだけでも十分な打撃ですが、こと産地では、野菜と違って出荷時期をずらすために種まき時期を調整することが難しく、一度に同じ品種が咲き揃うことになってしまい、一気に市場に出荷されることとなります。

末端の花屋で売れる量が減れば仕入れも減り、市場では値崩れを起こす。産地は咲き頃に出荷しなければ花の値打ちが無くなるので、泣く泣く出荷する。すると市場では値崩れして原価割れすることになる。す



なわち産地では、売れば売るほど赤字になる結果となるわけです。

ある程度は市場や組合が補助金や融資を行っていますが、産地では借金として大きなのしかかってきます。小さな産地では「もう耐えられないから廃業する」という話まで出始めている現状です。

中国では習近平が三月になってから、花と果物を栽培している農家に対して、これから食糧危機が想定されるので米や穀物の生産に切り替えるようにと命令を出したようです。日本などへの農作物の輸出も新規では行なわれないようにする指導も始まったとか。

安倍政権は「花の危機的状況」を認識しているでしょうか。そして中国のように、今後の農業事情を展望しているでしょうか。甚だ心配なことです。

議員のレベルが著しく低下している

国会議員、地方議員を問わず、最近の議員はレベルが著しく低下していると感じるのは我々だけだろうか。政治家らしい議員が減少した裏で、程度の高くない市民活動の「単なる運動家」としか見えない議員が急増している。

色々な大会に参加すればわかるように、領土問題、拉致問題、在日問題、中共問題、靖国問題など、いわゆる「右系」の大会に来賓で挨拶する議員は漏れなく大会の趣旨に沿った話を織り交ぜた上で、主催者や同類の参加者と同じ運動家であることを自負しながら、「私が皆様の代弁者です」と言うのが決まりになっている。同じ活動をしている運動家の代表として議会に出ているのだと言う。いわゆる「左系」でも「宗教系」でも、この構図は全く同じである。それが不気味さを際立たせているのだが、議員側

も参加者の運動家や賛同者の人たちも、さして疑問に感じていないようだ。

これは実は恐ろしいことで、議員が「公共の奉仕者」ではなく「特定思想運動だけの奉仕者」だと声を張り上げることが、「公益」を判断基準とせずに税金から歳費を頂いていることになる。左右の思想対立でも宗教の守護者の違いでも、特定利益の賛同者・後援者の「票田」の言いなりで動く下僕議員だと標榜しているようなものだ。

こんな低レベルの議員が急増している背景には、選挙民の低レベル化が急速に進んでいることと、程度の高い市民活動と、程度の高くない市民活動の見分けも区別もつかなくなっている国民の幼稚化がある。

高度なレベルの運動家もいるが、低レベルの民衆が多過ぎて砂丘のダイヤ状態になっている。議員の中にも、立派な政治家

も少なからずいるのだが、幼稚な「運動家もどきの代弁者」を自負する議員と肩を並べることにはうんざりしているようだ。

議会に代弁者を送りたいという思想、宗教団体の気持ちは痛いほど分かるが、そもそも議員は政治家でなければならず、公僕でなければならぬはずだ。

寄稿 チャップリンは楠木正成を尊敬していた

「兵庫通信」代表 村上 学

喜劇王チャップリンが大の親日家だったことは有名だが、エビの天婦羅が好物だったとか京都のお寺が好きだったとかいう程度の記録しか語られない。しかし実は、神戸の湊川神社で祀られている楠木正成の「後醍醐天皇と約束したから命を捨てて義を通じた」生き方を心から尊敬していたことは、何故か人の口に上らない。

楠木正成は大楠公として江戸時代後半からの尊崇を集めているが、これを軍部が戦時教育に利用して「七生報国」というイデオロギーを作り出した。

「七生報国」という言葉は大楠公のものではない。大楠公は「七生滅賊」と言ったのである。七度死んで生き返っても天皇の敵を滅ぼしてみせるというもので、当時は法華経の教えに反することは大罪とされたが、大楠公はたとえ法華経に背いても義を通すことを優先したと言われている。

足利十萬軍を迎え撃って満身創痍となり、湊川を渡った所で生き残った一族の人を集めて、もはやこれまでと刺し違えて自決する時に、弟の正季が「この世の最後に思い残すことはありませんか」と尋ねると、正成は「七度生き代わって朝敵を滅ぼしてやりたいものだ」と高らかに笑って刺し違えたと伝えられている。まかり間違っても、大楠公は「七度生き代わって国に報いたい」とは言い残していない。

この言い換えは、軍部の国民教育、道徳教育の根幹として根づいたが、軍神として

もう一度、自分たちの思想信条に合致した集会に来賓でやってくる議員を見つめ直して、こんな議員に資格はあるのかと考へたい。政党でも「職業選択の自由と、思想信条の自由を金科玉条とした烏合の衆」が罷り通る時代、我々がしっかりと判定を与えられるだけの勉強をしておきたいものだ。

大楠公を祀るという歪んだ精神が生まれてしまった。大楠公は義を重んじた天下の大悪人として、後醍醐天皇が「国家権力に命がけで立ち向かえるのは彼しかない」と頼りにした人物なのである。

さて、チャップリンに話を戻そう。彼は一九三六年三月に新婚旅行（女優ポーレット・ゴダードとの結婚）で日本へやって来るが、その時の記録は「三月六日横浜港に到着、七日に奈良ホテル、八日に神戸港から帰国」となっている。しかし実際には、横浜から東京に向かい、そこから夜行列車に乗って神戸に直行しているのだ。チャップリンは一九三二年に一度神戸へ来ているが、その時に果たせなかったことが残っていたのだ。



映画「ライムライト」より

妻と秘書（日本人）の三人でタクシーに乗り込み、湊川公園にある楠木正成像を見学し、そこから湊川神社へ向かっている。妻には「これが日本の英雄なのだ」と感慨深げに語っていたという秘書の日記がある。彼が神戸で、いや日本でどうしても果たしたかったのは、尊敬する楠木正成を体感することだった。

その後、大好きなスキヤキを食べて四時の船に乗り込んだ所へ、映画評論家淀川長治が訪問している。

チャップリンは楠木正成が命を平気で捨てることの出来た「義」というものを、どのように考えていたのかは記録が無い。しかし彼の晩年の映画には、奥ゆかしいこと、

恥を重んじることが大切に描かれている。「街の灯」「ライムライト」などは、高らかに笑って死んでいくことの出来た楠木正成を「美しい」と感じていたことが明確になっている。

国家権力に平然と立ち向かって笑って死んだ大楠公と、民族差別（チャップリンは

皇宮警察から尊皇心と恥が無くなりつつある

先般、皇宮護衛官の若い男女が御用邸で誰も居ない隙に肉欲に溺れ、畏多くも皇室がお使いになる御用邸を汚して平気な顔をしていた事件があった。皇宮警察本部長も宮内庁長官も辞任することなく、総理大臣もそれらに責任追及することなく、時は過ぎた。

皇宮警察というのは、全国四十七都道府県本部とは別に、特別な存在としての警察本部である。守るべき対象は、皇室とそれに関連するものだけだ。一般国民も一般法令も無関係に、皇宮警察は存在している。

当然、その警察官（皇宮護衛官）は厳格な身元調査とテストを乗り越えたエリートである。古くは後醍醐天皇に忠誠を誓った十津川に祖先を持つ人か、薩摩の武士の

英国生まれのユダヤ人）や戦時体制に翻弄されながらも、世の中を風刺し続けて生きたチャップリンはどこか共通点がある。決して国家権力に尻尾を巻くことなく、体制に阿ることもなく、堂々と「義」を通すことが美しいのだと、我々が再認識しなければならぬ問題は余りにも多い。

家系に連なる人しかなれなかった。皇室を尊崇し守護する心こそが最も重要だったのだ。

それがどうだ！ 御用邸をラブホテル代わりに利用する不届き者が皇宮護衛官で、その組織トップが責任を取ろうともしない。皇室が仮に現政権に連なる組織を「賞味期限切れ」として見捨てることが出来たとしても、すぐには代替組織は作れない。失われた三十年は経済だけでなく、最も失われたはならないところの精神をも失わせたのだろうか。



中共に毅然と立ち向かう台湾（蔡英文）を、安倍首相は見習え！ 支那大陸最新情報

携帯電話の解約が急増

新型コロナウイルスで都市封鎖が続いている中国では、今年になって携帯電話の解約が一、四〇〇万件を超えたそうだ。これは何を表わしているのだろうか。

中国人の意見は二つに分かれており、「死んだら必要ない」という意見と、「当局が事実を外国に流さないように先手を打って強制的に解約した」というものだ。現在の中国では、携帯と言えばスマホであり、録画機能が付いている。それを防ぎたいという当局の意図があるのだろうか。

いずれにしても、一、四〇〇万のスマホという「ネットに動画や写真をアップする報

道機能」が消失したことは事実だ。

ネットに出回る武漢写真のフェイク

最近ではパソコンで簡単に写真を創作するソフトがあり、それが香港あたりの「反中共活動家」に利用され、ネットにはあり得ない武漢の写真が流されている。

新型コロナウイルスで死んだ市民を揚子江に投げ込んで流しているとか、武漢郊外に巨大な穴を掘って死体を投げ入れているとか、それらしく合成した写真が添付されている。

百年前ならいざ知らず、揚子江に多くの死体が流されれば必ず東シナ海にプカプカ浮かぶことになる。そんなことになれば、

即日クーデターが起こり先進国軍隊も乗り込んでくる。また、新幹線脱線事故の時のように巨大な穴を掘って死体を埋めたりしたら、アメリカが衛星写真を証拠として乗り込んできて中共は倒されることになる。

少し冷静になって考えれば分かるのだが、「中共憎し」で凝り固まっている人たちには、ネットこそが真実に映るらしい。注意したもののだ。

瀋陽で反日反米の無礼な装飾

中共の陰謀と内紛から始まった今回の世界的感染拡大の嵐は、こんな所で中国人の本性を曝け出すこととなった。

遼寧省瀋陽市(旧満洲国奉天市)の有名店「揚ママのおかゆ店」では、三月二十三日に横断幕装飾を店先に飾った(写真)。横断幕には「アメリカの感染爆発熱烈歓迎、日本の感染爆発よ永遠なれ」と書かれている。



ネットで全世界に流されて、中共政府もさすがに日米に気が引けて、翌日には店側に撤去命令を出したが、本性というものは調子に乗った時にポロリと出てしまうものだ。

中共で出始めた

「新型ウイルス陰謀論」

最近になって出始めた中共の新しい風説は「新型ウイルスはローマクラブが計画した世界人口調整計画だ」というもの。ローマクラブとは陰謀論好きな人士の間では有名な、世界の頂点指導者会議とされるものだが、およそ十年前から世界人口の抑制が必要だと繰り返し声明を出していたことでも知られている。

中国を七億に、インドを六億に…などと調整して、世界人口を四十億人にする計画を、新型ウイルスを人から人へ感染させることで実行に移しているというものだ。

既にアフリカや南米では、スラムは全滅

するかもしれない勢いだ。ローマクラブが「不要な人」と考えて狙いを定めたのがキリスト教の「七つの大罪」に当てはまる人だという説も、よく練られたデマではある。

中共系企業は一月から三月に 七五〇社が倒産

中国では二月一日から三月十五日までの間に、全国の十万四、三二七社が上場廃止となっている。広東省の深圳では三、八六九社が倒産。失業者の半数以上は給料未払いのままである。この調子では、四月から六月の統計の時には、信じられないほどの企業が倒産するだろう。

北京市の倒産企業のうち、中共系企業では「給料の六〇%を退職金として支払う」ことになっているが、失業者はどこが引き受けるのか。

中共黨員三一七人の 武漢肺炎死亡者名簿が発表された

中共が武漢肺炎の作業に当たっていた黨員三一七人の死亡者名簿を発表したが、面白いことに全員が「過労死」となっている。新型コロナウイルスの死者はいないことになっているので、ネットでは逆に「中共黨員は武漢肺炎に感染しないのか」という書き込みが溢れた。

実態は、全員が武漢肺炎による「殉職」であるようだ。

中共の科学者が証言 「かつて一二七種類の生物兵器を 製造した」

ハルピンの獣医で動物病毒の専門家が証言しているのだが、かつて動物インフルエンザと人インフルエンザを交雑して一二七種類の病毒を製造したことがあるとのこと。

二〇一三年に「サイエンス」誌に生物兵器の論文を発表した陳化蘭チームは、実はハルピン獣医研究所のメンバーで、軍事利用を中共から命じられていたことも判明。今回、内部告発的に情報が流されている。